

情熱と夢を心に、起業・独立



「模範解答でない解き方を褒めた数学の先生が印象に残っている」と田川欣哉さん

「デザイナーエンジニア」の田川欣哉さん(40、1995年卒)は、外観を描くデザイナーと中身を作るエンジニアを融合させた「デザイナーエンジニアリング」という新しい分野を切り開いてきた。

大学卒業後、イギリスに留学。デザインを学び、帰国後はデザイン事務所で修行を積み、30歳でデザイナーエンジニアリングの会社「takram」を起業。「企む」にちなむ。医療機器など最先端の製品開発からビッグデータの分析システムまで、仕事は幅広い。一つの仕事は3人一組のチームで担うのが基本だ。

今は熊本産野菜の通販に加え、体験農園と就農支援プログラムを3本柱にする。就農支援は、働きたいけれど働くところがない路上生活の人と、農家の人手不足をつなげたいという思いから始めた。年間約10人を受け入れる。「最初は目も合わせないような人が、自信をつけて、風貌も別人のように変わります」

高校ではテニス部に所属。中学の軟式とは違って硬式テニスで、テニススクールで「エリート教育」を受けてきた人との差が努力では埋まらなかった。途中で熱が入らなくなった。特に大きな夢も持たないまま、東京大学理科一類に進学した。

大学卒業後、イギリスに留学。デザインを学び、帰国後はデザイン事務所

2006年に独立した。今熊本産野菜の通販に加え、体験農園と就農支援プログラムを3本柱にする。就農支援は、働きたいけれど働くところがない路上生活の人と、農家の人手不足をつなげたいという思いから始めた。年間約10人を受け入れる。「最初は目も合わせないような人が、自信をつけて、風貌も別人のように変わります」

大学にはソフトウェア作りなど、一つのことについて没頭する人が少なくなかった。自分を振り返ると、小さいころからおもちゃの分解など、ものいじりが好き。「こういう分野だったら、だれよりも熱量があるかも」。ものづくりに関心がある。農家直送の会員制通信販売などを手がける「えと菜園」の代表取締役、小島希世子さん(38、97

柔道部に女子がおらず「カッコいい先輩がいるよ、と女友だちを誘った」と小島希世子さん

から再び始めた。食糧難の国で働くという長年の夢を実現するための体力づくりだ。小学2年生の娘が20歳になったら、海外に飛び出したいと思っている。「今はそのための勉強中です」



柔道部に女子がおらず「カッコいい先輩がいるよ、と女友だちを誘った」と小島希世子さん